



東京都教育相談センターだより

東京都教育相談センター Vol17
東京都目黒区目黒 1-1-14
電話 03-5434-1984
ファクシミリ 03-3493-2293

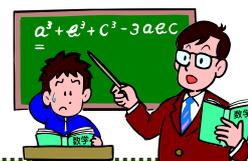
いじめ特集
第3号

いじめの具体的な指導

1号ではいじめを見落とさないための視点、2号ではいじめの状況が疑われた場合の取組みについて取り上げました。今回は、担任が指導する場合、どうするか具体的な指導方法について考えます。

～いじめた側を関与させた指導～

1 いじめた側を積極的に関与させた解決。



いじめの指導では、教師が強く全面に出て解決しなければならないこともあります。しかしその一方で、教師が強く指導した結果、表面的にはいじめが解消したかに見えても、潜在化、陰湿化して継続していることも少なくありません。

教師は、いじめた側を厳しく説諭したり、叱責したりして、いじめの行為を単に禁止するのではなく、いじめた側自身に問題解決の主体者としての役割と責任を与え、積極的にその解決に関与させていく必要があります。

2 いじめた側を関与させた解決の進め方

いじめられた側の話が無理強いしないように、率直な心情を共感的に聴き取るようにします。場合によっては、周囲にいた生徒も参加させ、いじめた側に解決方法を考えさせます。生徒がそれぞれの解決策を実行できるように、取組み状況を全教員で見守ります。解決策の取組み状況について個別に話し合い(面談)をもち、うまくいっていることは認め、うまくいっていない生徒は励ますようにします。



いじめを認識
させるポイント

- ・教師から解決への思いを伝える。
いじめられた側の心情を十分に考えさせる。
問題解決の主体者としての責任をもたせる。
- ・自分にできる解決策を提案させる。
- ・解決策を認め、実行を促す。

3 いじめた側を関与させるときの配慮事項

いじめた側を関与させた指導については、有効な場合もありますが、限界もあります。

- ・いじめの進行の状況、所属する学級や集団の雰囲気、指導者である教師と児童・生徒との人間関係等を十分考慮します。
- ・長期化、陰湿化したいじめや、いじめた側に深刻な不適応の行動等が見られる場合には、教師の強い指導や関係機関等との連携を図った指導が有効です。

指導の方針を保護者、生徒、地域社会に知らせ、理解を求めておきましょう。

全校的な体制の中で最後まで生徒の活動を見守り、適切に指導することが重要です。

4 「いじめた側が悪いとは限らない」と考えている場合

「いじめた側が悪いとは限らない」と考える生徒もいます。これらの理由が生じる背景や、それがいじめを助長していくプロセスに注目し、いじめた側の論理が不当であると気付かせることが大切です。

いじめた側が悪いと
限らないと思う理由

- ・みんなで決めたまりに外れるような行動のあった人を懲らしめる。
- ・集団との異質性を感じさせる人を排除する。
- ・かつていじめっ子だった人を排除する。

5 いじめの正当化の論理の誤りを正していく教師の姿勢

いじめの正当化の論理に巻き込まれず、公平に接します。

いじめた側にも、いじめられた側にも、それぞれに言い分があることを十分に配慮しながら、公平に聴き取り、誤った理論に巻き込まれないようにします。

集団のきまりの在り方について考えます。

集団の秩序やルールの基本は、共に生活する者が、心地よく生活できるようにするためのものです。一人一人がどのように友人とかかわっていけばよいか話し合えます。

個人の違いを認めます。

一人一人の違いを認める教員の日常の言動が大切です。それを教員が示すことにより、生徒相互に認め合う雰囲気を生み出していきます。



～いじめられた側への指導～

いじめられた側を守る。

教員は、「いじめる側がどんな理由を述べようとも、いじめることは許さない」と考えていることを伝え、いじめから一人一人を守るということを約束します。担任だけではなく、他の教員も一体となっていじめを制止していくことで、いじめられた生徒が安心して学校生活を送れるように努めます。

個々の生徒の課題は個別の指導を行う。

いじめられた側に何らかの課題が存在することもあります。個々の生徒のもつ課題への指導といじめの指導とを明確に区別して指導を進めることが重要です。

「いじめの心理と構造をふまえた解決の方策」東京都立教育研究所 H10,2 より抜粋

きっとみつかる“きみの道” 進路相談会を開催しました！



学校に行くことができなかつたり、高校を中途退学した人のための進路相談会を、第1回目を8～9月に第2回目を10～11月にそれぞれ3会場で開催しました。

前半の全体の説明会では、都立高校のチャレンジスクール(世田谷泉・六本木・大江戸・桐ヶ丘・稔ヶ丘・八王子拓真(チャレンジコース併設)や、通信制・定時制(砂川・一橋・浅草)の説明を行いました。また、東京しごとセンターや通信制/サポート校東京ネットワークからも活動についての説明がありました。

延べ966名の参加者があり、「このような高校があることを初めて知った」「詳しくわかった」「まだまだ進路はあるのですね」などのご意見をいただくなど、進路選択についてヒントを提供できたのではないかと思います。

進路相談会だけではなく、当センターにおいては、電話や来所による個別相談を、平日9時～21時、土日祝日9時～17時に行っております。専用回線03-3493-8008へどうぞ。